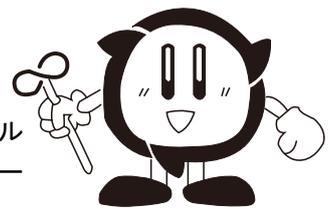


仙台メビウス通信

ごみ減量・リサイクル
推進啓発キャラクター



●編集・発行 仙台市環境局家庭ごみ減量課
●電話 214-8227

あなたとわたしの声をつなぐクリーン仙台推進員のコミュニケーション情報誌

海洋プラスチックごみ問題のこと 一緒に考えてみませんか	1 P
教えて!メビウスちゃん	2 P
仙台市環境局からのお知らせ	3 P
活動報告書の集計結果をお知らせします	4 P

海洋プラスチックごみ問題のこと 一緒に考えてみませんか

プラスチックは、身の回りのあらゆるものに利用され、わたしたちの暮らしを便利で快適なものにしています。

一方で、安く大量に生産されるがゆえに気軽に使い捨てられ、ポイ捨てや不法投棄などきちんと処理されなかったプラスチックごみは、河川など水の流れを通じて海へ流れ込み、さまざまな問題を引き起こしています。

海に出たプラスチックごみは自然分解されず、波の力や紫外線の影響などで細かく砕け、マイクロプラスチック(5ミリメートル以下の微細なプラスチック)として海に残り続けます。それを魚が餌と間違えて食べてしまうなど、海の生態系への影響が懸念されています。

仙台市では、7月に若林区荒浜の海岸で漂着物の実態を調査。ガラスや金属などのさまざまな漂着物が見られた中で、ペットボトルやレジ袋などのプラスチックごみは、自然物に次いで割合が高く、海洋プラスチックごみ問題は私たちの身近なところでも起きていることが分かりました。

また、9月から、プラスチックごみ問題のことを考える特設ウェブサイト『みらいのわたしたちへ、いま、できること。』プラスチックごみ削減チャレンジ

2020』を公開し、プラスチックごみの現状と、仙台の海のことや、わたしたちの街で起きていることを、さまざまな視点で伝えていきます。

プラスチックとの向き合い方を考え、生活スタイルを見直すヒントとなる情報を随時発信していきますので、ぜひご覧ください。



プラスチックは細かくなっても海に残り続けます

特設ウェブサイト『みらいのわたしたちへ、いま、できること。』プラスチックごみ削減チャレンジ2020』
<https://plasticreduce.jp/>



↑ウェブサイトはこちらのQRコードからアクセスできます

問 家庭ごみ減量課 214-8229

教えて!メビウスちゃん ～感染症流行期のごみの出し方～



問1 感染症の流行期に、家庭ごみの出し方で注意することは?

答1 家庭ごみを出すときは、次の3点に気をつけましょう。

- ①収集作業中に中身が破れて、中身が散乱するのを防ぐため、ごみ袋は詰めすぎず、空気をしっかり抜き、袋の口をきちんと結ぶ。
- ②感染予防のため、ごみは素手で触らず、ごみ出し後は手を洗う。
- ③カラスなどに荒らされないよう、集積所には収集日の早朝から8時30分までに出し、ネットを必ずかける。

収集作業員の安全にもご配慮ください

熱や咳、鼻水などの風邪症状がある場合には、使用したマスクやティッシュなどはビニール袋等で密封してから、他のごみと一緒に混ぜて、家庭ごみ指定袋に入れて出すようお願いします。



教えて!メビウスちゃん ～ペットボトルの出し方～

問2 ペットボトルのフタとラベルはどうしてはずすの?

答2 リサイクルしやすくするためです。ペットボトルをよく見ると、本体は「PET」、ラベルとフタは「プラ」と表示されています。これは、それぞれ異なる素材からできていることを意味しています。ペットボトルから質の良いリサイクル品を作るためには、ラベルとフタを分別して異なる素材が混ざらないようにすることが大事なんです。

ペットボトルは、①フタとラベルをはずして、②中を軽くすすいで、③つぶしてから、「缶・びん・ペットボトル・廃乾電池類」の指定曜日に黄色の回収容器に入れてください。

①フタとラベルをはずして



②中を軽くすすいで



③つぶして



※「プラ」と表示されているフタとラベルは、はずしてプラスチック製容器包装指定袋へ入れて出します。

※スーパーマーケットなどの店頭回収もご利用ください。

仙台市環境局 からのお知らせ

◆モットナイキッチン 冬のレシピ投稿キャンペーン

仙台市が運営する食の3R推進ウェブサイトを「モットナイキッチン」では、普段なら捨ててしまう部分や余ったおかずをリメイクしたレシピが満載！左記、投稿期間中に新しいレシピを投稿した方の中から抽選でプレゼントが当たるキャンペーンを実施します。

いつもは捨ててしまっている果物や野菜の皮を使ったり、残った食材をリメイクしたりするなど、「モットナイ」を実践しているレシピを投稿してください。

■投稿期間
令和2年12月15日(火)～令和3年1月14日(木)

■応募方法
ウェブサイトを「モットナイキッチン」にレシピを投稿後、プレゼント応募受付フォームから申し込んでください。
※1人で複数のレシピを投稿した場合は1口の応募となります。

■抽選で50名様にステンレスボトルをプレゼント。賞品の発送をもって当選者の発表に代えさせていただきます。



■ウェブサイトを「モットナイキッチン」
<https://www.mottainai-kitchen.com/>



↑レシピ投稿はこちらのQRコードからアクセスできます

問 家庭こみ減量課 214-8229

◆フードドライブを実施します

家庭や職場での未利用食品を持ち寄り、フードバンク団体を

に寄付する「フードドライブ」を実施しています。左記の回収拠点に食品回収用ボックスを設置しています。賞味期限まで1カ月以上ある缶詰、レトルト食品、インスタント麺などのご提供をお願いします。

■設置期間
令和2年10月1日(木)～令和3年3月31日(水)

■回収拠点
イオン市内5店舗(仙台店、幸町店、イオンスタイル仙台卸町、中山店、富沢店)、ヤマザワ市内2店舗(住吉台店、中田店)、仙台市葛岡・今泉リサイクルプラザ

問 家庭こみ減量課 214-8229

◆資源物の持ち去りを見かけたら

集積所に出された「紙類」や「アルミ缶」などの資源物の持ち去りを見かけたら、トラブルを避けるために、直接指導をしないで、仙台市へ通報をお願いします。

通報の際には①発見日時、②発見場所、③車両ナンバーや車

種、④持ち去り行為を行っている者の特徴などをメモして、持ち去りを見かけた区の環境事業所または環境局家庭こみ減量課へご連絡ください。

問 家庭こみ減量課 214-8229



環境事業所の電話番号

青葉環境事業所	277-5300
宮城野環境事業所	236-5300
若林環境事業所	289-2051
太白環境事業所	248-5300
泉環境事業所	773-5300

令和元年度活動報告書の集計結果をお知らせします

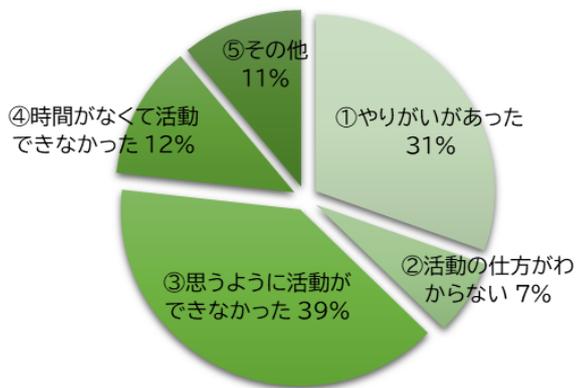
クリーン仙台推進員の皆さまには、年1回「活動報告書」を提出いただいております。令和元年度の活動報告書の集計結果がまとまりましたのでお知らせいたします。

①クリーン仙台推進員としての活動内容とその頻度について（単位：％）

活動内容	毎日	週数回	月数回	年数回	なし
ごみ集積所の清掃	4.8	31.2	31.3	22.9	9.8
ごみ集積所の点検・見回り	10.7	38.1	31.7	18.1	1.4
ごみ集積所での分別啓発	1.6	13.6	19.2	39.9	25.7
ごみ集積所の改修	1.8	3.3	13.5	55.3	26.1
チラシやポスターの作成	0.3	1.3	5.0	30.9	62.5
町内会報等へ環境記事掲載	1.0	1.6	9.9	37.9	49.6
町内会へ報告や呼びかけ	0.8	2.3	21.4	58.5	17.0
まち美化活動	1.8	5.4	19.8	46.7	26.3
不法投棄巡視パトロール	3.8	11.6	21.1	31.0	32.5
環境に関する勉強会の実施	0.3	0.4	3.0	26.3	70.0

活動内容として最も多かったものは、ごみ集積所の清掃や、点検・見回りで、毎日または週数回活動していると回答した割合は、清掃が36%、点検・見回りが48.8%でした。常に集積所とその周辺に目配りをいただいていることが、町内のみなさんが気持ちよく集積所を使い、生活環境を清潔に保つことにつながっています。

一方で、環境に関する勉強会の実施なしと回答した割合は70.0%でした。コロナ禍では人が集まる機会が少なくなってしまっていますが、町内会報等への環境記事掲載やチラシやポスターなどの手段で、町内のみなさんにお知らせすることも、ぜひご検討ください。



②クリーン仙台推進員として活動した感想について

「思うように活動できなかった」と回答した割合が39%と一番多く、「活動の仕方がわからない」との回答も7%ありました。「ルール違反への効果的な対処方法が分からない」、「広報をしても効果がなかなか表れない」など集積所の使い方やごみの出し

方といったルールを周知する方法へのお悩みや「注意をするには勇気がいる。感情的になる人もいるので大変難しい」、「『排出ルールを守りましょう』と言うにも、命令はまずいだろう」、「若い世代の人たちに理解してもらえない」など町内の皆さんへの接し方に関するお悩みの声も多くありました。

2番目に多かったのは「やりがいがあった」で、31%でした。「ハンサムネットの設置によりカラスや猫のごみ荒らしの被害が少なくなり、ごみ置き場の汚れも少なくなったと喜ばれた」、「最初のうちは口うるさいと思われていたが、回を重ねるごとにきれいになった」、「自分の行動で町内の美化が出来るので、自分なりに生きがいや喜びを感じる」、「我々の活動を見て、クリーン推進員に登録し、お手伝いしてくれる方が現われた」など、課題が改善・解決できたことや、一緒に活動する仲間がいることで、やりがいを感じている方が多いようです。

他には、「時間がなくて活動できなかった」が12%でした。「普段は仕事があり、忙しくて時間がとれなかった」、「他の推進員と一緒に活動できる日が少なかった」「体調不良のため、見回りが難しかった」といったお声もありました。

ご意見の中には、「集積所への粗大ごみ等の不適正排出が絶えない」、「不適正排出をした方が特定できても声をかけるのが怖い」、「カラスにごみを散らかされて困っている」、「アパートに住む単身世帯のごみの出し方が悪い」など集積所に関するお困り事の声も多くありました。

各区の環境事業所（連絡先はP.3に掲載）では、不適正排出や集積所に関するご相談をお受けし、改善へ向けたお手伝いをしていますので、お気軽にご連絡ください。